（別紙様式１）

国際交流・留学プログラム構築推進事業　計画書

１　学校名（都道府県名）学校法人名および学校名を記入すること。

２　事業担当者
　　職　名：
　　氏　名：
　　連絡先：

３　学科・コース等の構成、学年別生徒数及び学級数

学科等 ※専門学科については （）内で大学科を記載すること。	取組※	学年別生徒数及び学級数（令和８年５月１日現在）※										外国人留学生受入れ数 ※			
		第１学年		第２学年		第３学年		その他		計		令和７年度実績		令和８年度予定	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	３か月未満	３か月以上	３か月未満	３か月以上

※令和８年度の生徒数の整理が困難な場合には、令和７年度時点の生徒数を記載ください。
※外国人留学生受入れ数については、該当年度中に受け入れた（予定している）人数を記載ください。
※本事業を主として実施する学科等は「取組」欄に◎を記載してください。左記の学科等と一部でも協働・連携して実施する学科等は〇を記載ください。
※必要に応じて行を追加してください。

４　現状の分析と課題

生徒や学校、地域等の現状を、実態調査等のデータ等に基づき分析した上で、事業実施における課題を具体的に記入すること。

５　実施内容

（１）本事業を通じて育成を目指すグローバル人材像

事業を行うことによって、どのような人材の育成を目指すのか、具体的に記入すること。

（２）事業の目的・達成目標

本事業の目的を踏まえ、学校として事業を行うに当たっての目的、期間中に達成を目指す目標を記入すること。

（３）事業の概要

設定した課題・目標を踏まえてどのような取組を行うのか、手段や実施方法を含め、具体的に記入すること。

（４）事業の実施計画

いつまでに何をやるのか、成果の普及や支援期間終了後の継続・発展計画も含めて具体的に記入すること。

（５）期待される成果

実施によって期待される成果等について、具体的に記入すること。

（６）充実した取組を行うための工夫

オンラインによる事前事後研修等を組み合わせる等、取組を充実させるための工夫があれば記入すること。

（７）地域や学校の特性を生かす取組

地域や学校の特性を生かすための取組や工夫があれば記入すること。

（８）日本や日本文化への理解を深めるための取組

生徒が、日本や日本文化への理解を深められるような取組や工夫があれば記入すること。

６　実施体制

（１）事業の実施体制

事業の実施体制およびそれを支援する体制について、役割分担等を含め、具体的に記入すること。

（２）実施に向けての生徒・保護者向け説明会、地域の関係者等との打合せの実施計画

実施に向けて説明会等の計画があれば、対象者、実施回数、実施方法、内容など、具体的に記入すること。

（３）有識者会議や国際交流アドバイザー招へい等の実施計画

実施に当たって有識者による検討会等の計画があれば、有識者の属性や実施回数、実施方法、検討内容など、具体的に記入すること。

（４）外国人留学生受入れに関する支援体制

外国留学生受入れに関して、授業や日常生活での支援、メンタルサポートなどを行うための支援体制について、具体的に記入すること。

（５）外国人留学生受入れに関する危機管理体制

危機発生時に円滑かつ的確な対応を図るための体制について、具体的に記入すること。

（６）プログラム実施に携わる教職員や留学支援員の国際経験等

プログラム実施に携わる教職員等が、実施に当たって必要となる語学力、国際交流・留学経験、国際交流・留学に係る業務経験等を有していれば、記入すること。

（７）地域の高等学校、企業や大学等との連携体制

実施に当たって他機関等との連携を予定している場合には、連携先、連携の具体的な内容や方法、役割などを記入すること。

７　フォローアップ・成果検証の実施

（１）事業の効果測定や意識の変化の把握方法

実施による成果をどのように検証、評価するのか、具体的に記入すること。

（２）成果の校内はじめ域内の学校等への普及・発信に関する取組

取組の成果をどのように普及させるのか、内容や実施方法等について具体的に記入すること。

（３）文部科学省が実施する各種調査への協力体制

事業期間中もしくは事業終了後に文部科学省が実施する調査等へ対応するための協力体制について、具体的に記入すること。

８　その他特記事項

その他特記すべき事項があれば記入すること。

※体制に関する項目については、必要に応じて体制図をＡ４版（タテ）で作成すること（任意様式）。
※その他、必要に応じて資料等を添付すること。